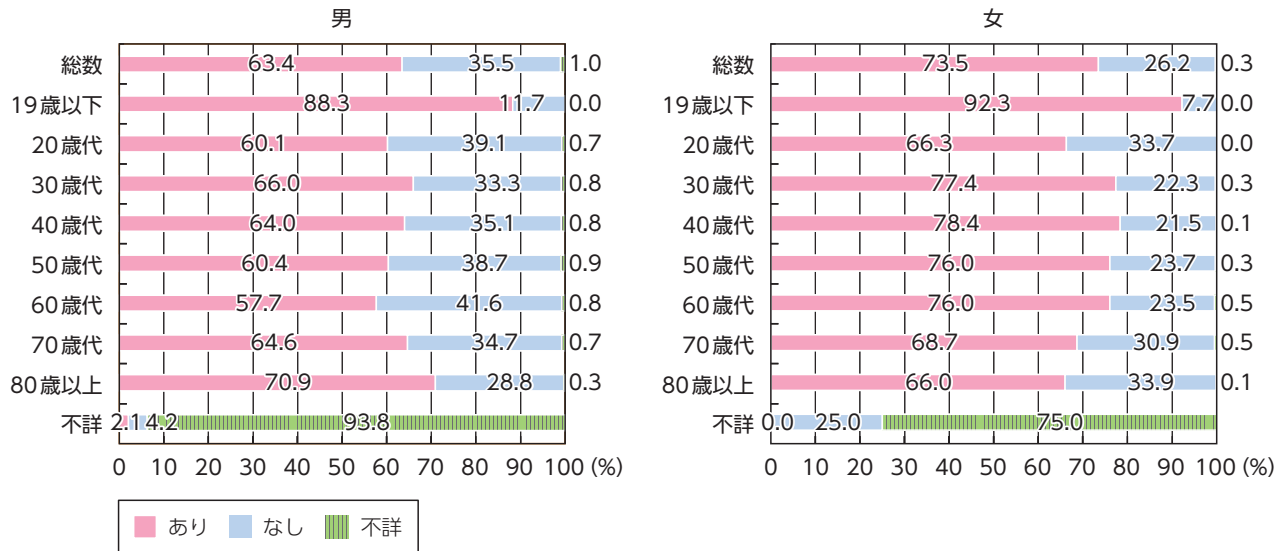


## 7 同居人・配偶関係別の自殺の状況

平成30年における同居人別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-30図）、男

女とも、全ての年齢階級で、同居人「あり」が多くなっている。

第1-30図 平成30年における同居人の状況別自殺者数の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

次に、平成29年における配偶関係別の自殺死亡率の状況を見ると（第1-31表）、男女とも「有配偶者」は全ての年齢階級で各年代別の総数よりも低くなっている一方、「未婚」、

「死別」、「離別」は各年代別の総数よりも高くなっている。特に、男性の「離別」が高くなっている。

第1-31表 平成29年における配偶関係別の自殺死亡率（配偶関係別人口10万人当たり）の状況

		男					
年齢階級	総数 <sup>1)</sup>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
総数 <sup>2)</sup>	26.9	24.2	25.1	27.8	32.8	28.4	
有配偶者	17.8	9.8	11.6	15.8	19.6	20.2	
未婚	33.4	27.8	39.3	40.5	53.4	57.5	
死別	53.3	—	153.8	98.9	64.8	51.5	
離別	109.3	135.6	133.6	129.0	121.0	86.4	

		女					
年齢階級	総数 <sup>1)</sup>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
総数 <sup>2)</sup>	10.7	9.5	8.7	10.1	12.3	12.2	
有配偶者	7.9	4.2	4.2	6.4	9.4	9.8	
未婚	11.7	10.8	14.6	16.1	22.4	14.6	
死別	14.9	—	62.5	22.0	15.8	14.7	
離別	25.8	43.5	32.6	28.3	24.1	22.2	

注：1) 総数には15～19歳及び年齢不詳を含む。

2) 総数には配偶関係不詳を含む。

資料：厚生労働省「人口動態統計」及び国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2019）」より厚生労働省自殺対策推進室作成